

## MIDDLE1600\_1

0401: ビャウヱクは<sup>かわせ</sup>為替<sup>よ</sup>を<sup>き</sup>読み切り、<sup>おおがねも</sup>トレードで大金持ちになったとさ。

0402: <sup>きゅうじょう</sup>球 場<sup>な</sup>に<sup>ひび</sup>鳴り<sup>たたか</sup>響く 戦<sup>じょきょく</sup>いの序 曲 は、ファンファーレのようです。

0403: このボアスピアソードは<sup>ば</sup>馬鹿<sup>か</sup>げた<sup>き</sup>切れ<sup>あじ</sup>味<sup>てつ</sup>で、鉄<sup>き</sup>でも<sup>さ</sup>切り<sup>さ</sup>裂<sup>さ</sup>きますぞ。

0404: キェシロフスキは<sup>ば</sup>場<sup>しず</sup>を<sup>しず</sup>静めるため、ヴィヴィアンに<sup>きょうりよく</sup>協 力<sup>たの</sup>を頼みました。

0405: <sup>しらみ</sup>虱<sup>べっしょう</sup>のことは、別<sup>はんぷうし</sup>称<sup>よ</sup>で半風子とも呼びます。

0406: ジュゼッパは、アゴスティーニョを<sup>とも</sup>供<sup>い</sup>に、ポルトガルへ行きます。

0407: ポルペッティーネの<sup>ごかん</sup>語感<sup>りょうり</sup>で、イタリア料 理<sup>なっとく</sup>と納 得<sup>な</sup>できます。

0408: ウォードはツォンガに<sup>ま</sup>ジェンガ<sup>みじ</sup>で負<sup>き</sup>け、惨<sup>も</sup>めな<sup>き</sup>気持<sup>も</sup>ちになりました。

0409: 目<sup>め</sup>が覚<sup>さ</sup>めたら<sup>かみ</sup>髪<sup>ちぢ</sup>が縮<sup>ぜつきょう</sup>れていて、リッツィは絶 叫<sup>ぜつきょう</sup>しました。

0410: リージュを<sup>とら</sup>捉<sup>び</sup>えし<sup>うぬぼ</sup>ょっ引<sup>ぼく</sup>けるのは、自惚<sup>ぼく</sup>れではなく僕<sup>ぼく</sup>だけですよ。

0411: カリキュラムのことでアリヤジュを<sup>たず</sup>訪<sup>ふざい</sup>ねたが、不在<sup>ふざい</sup>でした。

0412: ブシェミは<sup>こども</sup>子供<sup>ね</sup>を寝<sup>しず</sup>かすため、静<sup>しず</sup>かにと<sup>つた</sup>ジェスチャ<sup>つた</sup>で伝<sup>つた</sup>えました。

0413: ギャンブルで<sup>ま</sup>ぼろ負<sup>きよがく</sup>けし、ツイピーヌは巨 額<sup>しゃくざい</sup>の借 財<sup>お</sup>を負<sup>お</sup>ったそうです。

0414: コーヒーの<sup>しじょうき</sup>市 場<sup>ぼ</sup>規 模<sup>いっちょう</sup>は 一 兆<sup>こ</sup>を超<sup>とく</sup>え、グアテマラは特<sup>とく</sup>に<sup>にんき</sup>人 気<sup>にんき</sup>です。

0415: <sup>しゃば</sup>娑婆<sup>で</sup>に出<sup>りちぎ</sup>たヤクザ<sup>けいさつ</sup>が、律儀<sup>あいさつ</sup>に警 察<sup>む</sup>へ<sup>む</sup>挨 拶<sup>む</sup>に向かいます。

0416: <sup>やしろ</sup>社<sup>し</sup>で、フルシュデヤンのお忍<sup>し</sup>び<sup>で</sup>デ ー ト<sup>で</sup>を<sup>で</sup>出<sup>で</sup>歯 亀<sup>で</sup>とは<sup>で</sup>ゲス<sup>で</sup>いね。

0417: ヒュスニユは、<sup>たからもの</sup>宝 物<sup>あ</sup>が<sup>あ</sup>ポルターヴァ<sup>しゅちょう</sup>に有<sup>しゅちょう</sup>ると主 張<sup>しゅちょう</sup>しました。

0418: シャングォを<sup>つか</sup>使<sup>りょうり</sup>った料 理<sup>から</sup>が辛<sup>ふく</sup>すぎて、服<sup>ひさん</sup>が悲 惨<sup>ひさん</sup>なことになりました。

0419: 世界<sup>せかい</sup>を<sup>ゆ</sup>揺<sup>もの</sup>るが<sup>もの</sup>す者<sup>もの</sup>として、コジェドゥーブが<sup>で</sup>テレビ<sup>で</sup>のバラエティ<sup>で</sup>に出<sup>で</sup>てるよ。

0420: ファミヨンの<sup>そと</sup>ビル<sup>なが</sup>から外<sup>に</sup>を<sup>み</sup>眺<sup>み</sup>めたら、虹<sup>に</sup>が<sup>み</sup>見<sup>み</sup>えました。

0421: ビュゼの張り手は威力拔群で、プロレスラーもなぎ倒せるでしょう。

0422: 含有量が間違っていると、ジェノヴェーシの指摘で発覚しました。

0423: 私の財布を持ち出した犯人は、ウィペットじゃありませんか？

0424: 巨大ビル作りには、礎が歪まぬよう地質調査が必須です。

0425: スィーリアは消耗し、クィンテットを解散することにしました。

0426: 下剤を誤って飲んでしまい、飄々としてはられません。

0427: ジャネットは、由緒ある古寺出身のミュージシャンです。

0428: 百花咲き乱れる花園で、ファーウェルは働いています。

0429: ベディヴィアなら、自室に籠って陶芸でもやってるはずよ。

0430: 実家には、ドゥムナグゥアルの自画像が、華奢な額縁に飾られています。

0431: 「魂とは何か」の解釈を、ダミヤノヴィッチはずっと考えてます。

0432: おー、クォータービューなら、ゲームで普遍的に使われますね。

0433: デュースが続き、足が縄れ躓き転げてしまったわ。

0434: プリピャチは、チェルノブイリとの距離が短いようです。

0435: モドゥーニョが生ごみ処理用にと、ディスポザーを設置しました。

0436: ショーヴォーから預かったシーディーも、バッグのポケットに入れてください。

0437: ズィーブラは、網棚の上にフュージョンのディスクを忘れました。

0438: ビェロヴァルに、ペッパーポークの需要ってあるんですかね。

0439: 長い廊下の端で、子供らがキャッキヤとお飯事に夢中ですな。

0440: 七つに分かれた地図を集め、ヴァグナーを訪ねれば答えが得られよう。

0441: 微弱だが捉えたのは、パスクィーニからのメッセージです。

0442: シュヴァルツコップの熱唱に絆され、スパチャし過ぎました。

0443: 眉間に皺を寄せたビュフェが、フォカッチャを買いに出かけました。

0444: 目映い世界は、ザヴィエルチェのビュースポットで見られますよ。

0445: トゥーヴィムは癰癤を起こし、酒場を荒らしました。

0446: 宗家の方々は、別室で寛ぐ約束です。

0447: ジェヒューディは、ぬいぐるみを抱き上げてスキップしてます。

0448: 群れのボスに、飛びつき式ディーディーティーを食らわせてやりましょう。

0449: ヘッフェルフィンガーによると、ジェマは苛烈な人だそうです。

0450: グィネヴィアを左右から牽制し、テュラムが攻めるのはいかがでしょう？

0451: ギャロップはウェットティッシュを買い、腕を拭いています。

0452: 貴重なケープフィアを腐らすとは、チューネもまだまだ未熟ですな。

0453: 八つの息子が、ペンティヴオーリオ旅行なんてジョークですよ。

0454: ピョンヤンで活躍したピューマは、病気も怪我もありますか？

0455: チューリップ畑で出会った迷子の親は、見つかりましたか？

0456: 紅孔雀って言葉の響き、実にポエティックで良いですね。

0457: ザリピエの窯で、皆が平等に、花柄の陶器を焼きました。

0458: しばしば舌が絡み、テャーと呼び間違うのを防ぎたいな。

0459: 欲張りなヌコモさん、贅沢は敵だとおっしゃいますか。

0460: キャサリンは妊娠し、故郷で緊急入院となりました。

0461: 卑屈なほど柔弱じゃ、ジェラルディネを御しきれませんよ。

0462: ジェイジェイとのディージェー勝負は、ボテョの節目になるでしょう。

0463: ギャロウェーにある、じっちゃとばっच्याの墓<sup>はか まい</sup>に参<sup>えこう</sup>って、回向しますね。

0464: ツエルウェーガーは、学<sup>がく</sup>殖<sup>しよく</sup>豊<sup>ゆた</sup>かなプロフェッショナルですよ。

0465: ヴォイノーヴィチは暇潰<sup>ひまつぶ</sup>しにと、宮<sup>きゅうてい</sup>廷<sup>ぎよくざ</sup>で玉座<sup>ちゃくざ</sup>に着座<sup>ちゃくざ</sup>してます。

0466: シィシュコフは手<sup>て</sup>で製図<sup>せいず</sup>したが、やはりキャドに頼<sup>たよ</sup>るべきでしたね。

0467: この広義積分<sup>こうぎせきぶん</sup>の収束<sup>しゅうそく</sup>条件<sup>じょうけん</sup>を証明<sup>しょうめい</sup>したのは、ツァネフです。

0468: ザクシェフスキの訃報<sup>ふほう</sup>で、ジャービトは茫然<sup>ぼうぜん</sup>となりました。

0469: フェブジがうっかり布<sup>ぬの</sup>を割<sup>さ</sup>き、ペコペコ頭<sup>あたま</sup>を下<sup>さ</sup>げてます。

0470: 湖畔<sup>こはん</sup>の宿<sup>やど</sup>で、天邪鬼<sup>あまのじゃく</sup>のヴァルヒャと一泊<sup>いっぱく</sup>ですか。

0471: ピューリッツァーが真水<sup>まみず</sup>を飲<sup>の</sup>み、グルーヴに合<sup>あ</sup>わせて手拍子<sup>てびょうし</sup>します。

0472: 手助<sup>てたす</sup>けしたいが捕<sup>と</sup>らわれの身<sup>み</sup>、不義理<sup>ふぎり</sup>で申し訳<sup>もう</sup>ございません。

0473: 脚<sup>あし</sup>を手術<sup>しゅじゅつ</sup>するため、今年<sup>ことし</sup>コンシェルジュに就<sup>つ</sup>くことは、ほぼ不可能<sup>ふかのう</sup>です。

0474: ウェルトミューラーの手柄<sup>てがら</sup>は、ほぼ偶然<sup>ぐうぜん</sup>の産物<sup>さんぶつ</sup>と聞いております。

0475: そこのフィギュアは僕<sup>ぼく</sup>が運<sup>はこ</sup>ぶので、あっちの歯車<sup>はぐるま</sup>を頼<sup>たの</sup>みます。

0476: ヴェルチョブスキとヴェスパシアーノは、良<sup>よ</sup>く遊<sup>あそ</sup>ぶ仲<sup>なか</sup>です。

0477: スキェルニェヴィツェ出<sup>しゅつ</sup>生<sup>しょう</sup>だと偽<sup>いつわ</sup>るが、別<sup>べつ</sup>に興<sup>きょう</sup>味<sup>み</sup>はありません。

0478: チェック無しで命懸<sup>いのちが</sup>けの勝負<sup>しょうぶ</sup>に臨<sup>のぞ</sup>むのは、狂気<sup>きやうき</sup>の沙汰<sup>さた</sup>ですよ。

0479: クウエシは懐<sup>ふところ</sup>が寒<sup>さむ</sup>く、暫<sup>しばら</sup>くカップラーメンで暮<sup>く</sup>らします。

0480: ボスには御意<sup>ぎよい</sup>と言<sup>い</sup>いながら、ブーディツカを逃<sup>に</sup>がしたのですね。

0481: フィガロの過<sup>あやま</sup>ちをジャンヌが正<sup>ただ</sup>すとは、妙<sup>みょう</sup>なことです。

0482: 七重八重<sup>ななえやえ</sup>を、舌<sup>した</sup>が縄<sup>もつ</sup>れ「にやにやえ」と読<sup>よ</sup>み、顔<sup>かお</sup>から火<sup>ひ</sup>が出<sup>で</sup>る思<sup>おも</sup>いでした。

0483: ヘピヨ海苔<sup>のり</sup>を頬張<sup>ほおば</sup>りながら、更<sup>ふ</sup>ける夜<sup>よる</sup>を楽<sup>たの</sup>しみます。

0484: ジェーンは、ツォツィル語の講座を見<sup>ご</sup>学<sup>こう</sup>し、受<sup>けん</sup>講<sup>がく</sup>を決<sup>じゅ</sup>め<sup>こう</sup>ました。

0485: グェスは、フォーキンとの約<sup>やく</sup>束<sup>そく</sup>を忘<sup>わ</sup>れたのではないでしょう

0486: レイヴパーティの後<sup>あと</sup>は首<sup>くび</sup>が凝<sup>こ</sup>り、頭<sup>あたま</sup>もぼんやりして

0487: ジャリーサがバザーで購<sup>こう</sup>入<sup>にゅう</sup>したピアスは、レプリカ

0488: ヴァッヒェンロートに居<sup>きょ</sup>住<sup>じゅう</sup>し、給<sup>きゅう</sup>仕<sup>うじ</sup>を雇<sup>やと</sup>った優<sup>ゆう</sup>雅<sup>が</sup>な暮<sup>く</sup>らしも良<sup>い</sup>いな。

0489: 祖国<sup>そこく</sup>では、モツツアレラのカルツオーネが親<sup>した</sup>しまれて

0490: ギェルイムスキとヴァーニャは、シェイクスピア戯<sup>ぎ</sup>曲<sup>きょく</sup>を鑑<sup>かん</sup>賞<sup>しょう</sup>し

0491: クァントレルは、まさ<sup>めい</sup>に盟<sup>しゅ</sup>主<sup>あお</sup>と仰<sup>た</sup>ぐに足<sup>じん</sup>る人<sup>ぶつ</sup>物<sup>です</sup>。

0492: やっちゃったミスは、率<sup>そつ</sup>直<sup>ちよく</sup>にお詫<sup>わ</sup>びして償<sup>つぐな</sup>い忘<sup>わす</sup>れ

0493: 僭<sup>せん</sup>越<sup>えつ</sup>ながら、クェツアルコアトルスの彫<sup>ちよう</sup>像<sup>ぞう</sup>を、自<sup>じ</sup>薦<sup>せん</sup>させて頂<sup>いた</sup>き

0494: ペイエは、百<sup>ひゃ</sup>俵<sup>つぽう</sup>の米<sup>こめ</sup>を担<sup>たん</sup>保<sup>ぼ</sup>に、期<sup>き</sup>限<sup>げん</sup>延<sup>えん</sup>長<sup>ちよう</sup>を許<sup>きょ</sup>与<sup>よ</sup>した。

0495: ピケティの理<sup>り</sup>論<sup>ろん</sup>を理<sup>り</sup>解<sup>かい</sup>はできても、実<sup>じつ</sup>践<sup>せん</sup>するこ

0496: 首<sup>しゅ</sup>相<sup>しょう</sup>が言<sup>い</sup>い間<sup>まち</sup>違<sup>が</sup>えましたが、あれはデョ

0497: フュルステンベルグへの発<sup>は</sup>言<sup>つげん</sup>は、誤<sup>ご</sup>解<sup>かい</sup>を生<sup>う</sup>むので取<sup>と</sup>り下<sup>さ</sup>げ

0498: ヴロジミェシュに、卵<sup>たまご</sup>は雌<sup>めす</sup>の鶏<sup>にわとり</sup>しか産<sup>う</sup>まないと、教<sup>おし</sup>えてあ

0499: デェウエンは、易<sup>やさ</sup>しいトレーニ

0500: 白<sup>び</sup>虎<sup>やっこ</sup>は煙<sup>えん</sup>幕<sup>まく</sup>を使<sup>つか</sup>い、強<sup>きよう</sup>力<sup>りよく</sup>な部<sup>ぶ</sup>下<sup>か</sup>を調<sup>ちよう</sup>教<sup>きよう</sup>し

0501: デイツツェル君<sup>くん</sup>なら、ご

0502: ヴァナは実<sup>じつ</sup>力<sup>りよく</sup>に乏<sup>と</sup>しいが根<sup>こん</sup>性<sup>じよう</sup>があり、ジョエルはその逆<sup>ぎやく</sup>である。

0503: チーズクェイクに藤<sup>ふじ</sup>が咲<sup>さ</sup>き乱<sup>みだ</sup>れ、ウィルフォードはリキュー

0504: 駅<sup>え</sup>鈴<sup>き</sup>の音<sup>おと</sup>色<sup>しき</sup>は唯<sup>い</sup>一<sup>ぎ</sup>無<sup>き</sup>二<sup>ど</sup>だが、居<sup>い</sup>酒<sup>ざ</sup>屋<sup>や</sup>では搔<sup>か</sup>き消<sup>き</sup>えて届<sup>とど</sup>かぬ。

0505: グイドーは、ペウチェレに<sup>ふちやりようり</sup>普茶料理を<sup>ふ</sup>振<sup>ま</sup>る舞ったが、どうなったかね。

0506: ヴァッカリッツォで、ヘリオトロープの<sup>けんきゅう</sup>研 究<sup>きわ</sup>を究めた。

0507: キェルケゴールは、母校に<sup>ぼこう</sup>分厚い<sup>ぶあつ</sup>書 籍<sup>しょせき</sup>を<sup>きそう</sup>寄贈した。

0508: ジャグディシュはへべれけで、<sup>じょや</sup>除夜の鐘<sup>かね</sup>を<sup>き</sup>聞<sup>の</sup>き逃したみたいだぜ。

0509: ピエンウィライが<sup>とつじょたお</sup>突如倒れ、<sup>みやくはく</sup>脈 拍<sup>よわよわ</sup>も弱々しい。

0510: チョロナーも、ジョスリーヌが<sup>はな</sup>離れたことで、<sup>め</sup>目<sup>さ</sup>が覚めただろ。

0511: クニユップファーの仕事が<sup>しごと</sup>滞<sup>とどこお</sup>り、<sup>ゆ</sup>論旨<sup>しめんしょく</sup>免 職<sup>しめ</sup>になりかねない。

0512: ヘゼキールの射 撃<sup>しゃげき</sup>の腕<sup>うで</sup>はピカイチで、ヘッドショットは<sup>はず</sup>外さない。

0513: 図々しいが、<sup>ずうずう</sup>グアヒロ語で、<sup>ご</sup>近々<sup>ちかちか</sup>家が<sup>た</sup>建つことを<sup>つた</sup>伝えてほしい。

0514: 茗 荷 谷<sup>みょうがだに</sup>で、ヴェールヌイの<sup>はなし</sup>話<sup>たすうき</sup>を多数聴くことができる。

0515: ヘンシエルの<sup>そんざい</sup>存在<sup>おおやけ</sup>が 公<sup>こう</sup>になれば、チェプリツェはパニックになるぞ。

0516: テュイルリー<sup>きゅうでん</sup>宮 殿<sup>ぎゃくしゅう</sup>で 逆 襲<sup>ぎゃくしゅう</sup>にあったのは、フェルディナンドか？

0517: フィジーで謎の<sup>なぞ</sup>奇病<sup>きびょう</sup>が<sup>まんえん</sup>蔓延し、<sup>ろっぴやくにん</sup>六 百 人<sup>こ</sup>を超す<sup>いのち</sup>命<sup>うば</sup>を奪った。

0518: シェリフォヴィッチの<sup>こくべつしき</sup>告 別 式<sup>こつきゅう</sup>でなら、<sup>なみだ</sup>哭 泣<sup>なみだ</sup>したっていいんだぜ。

0519: 明くる日の朝、ベルレプシュは、<sup>あ</sup>ゾイド<sup>ひ</sup>を<sup>あさ</sup>買<sup>か</sup>いに<sup>で</sup>スーパ<sup>で</sup>ーに出かけた。

0520: ちょくちょく<sup>くちげんか</sup>口喧嘩<sup>ひっぱく</sup>もしたが、<sup>ふじょ</sup>逼迫<sup>ふじょ</sup>したら<sup>ふじょ</sup>扶 助<sup>ふじょ</sup>するぜ。

0521: 塩 味<sup>しおあじ</sup>のことを<sup>みょう</sup>ソルティ<sup>しゃれ</sup>という<sup>ひび</sup>と、<sup>みょう</sup>妙<sup>しゃれ</sup>にお洒落<sup>ひび</sup>な響きになるのだ。

0522: 弊 社<sup>へいしゃ</sup>の 社 食<sup>しゃしょく</sup>、デザート<sup>ぜっぴん</sup>のキャラメルショコラは<sup>ぜっぴん</sup>絶 品<sup>ぜっぴん</sup>だぜ。

0523: 部 長<sup>ぶちょう</sup>がツイエクの<sup>やくよ</sup>厄除け<sup>しよせん</sup>をしたが、<sup>よきよう</sup>所 詮<sup>す</sup>は余 興<sup>す</sup>に過ぎない。

0524: ヒュギーヌスとペピータが、<sup>うよきよくせつ</sup>紆 余 曲 折<sup>へ</sup>を経て、<sup>みつげつ</sup>蜜 月<sup>みつげつ</sup>になった。

0525: チェシャ猫<sup>ねこ</sup>の<sup>みりよく</sup>魅 力<sup>かた</sup>を語らう<sup>かた</sup>ゴルツイネと<sup>かた</sup>ヴォーティガンは、<sup>すき</sup>隙 だらけ<sup>すき</sup>だろ？

0526: ポジーリヤ<sup>みやげ もら</sup>土産で貰ったツアボライト、偽物<sup>にせもの</sup>だってさ。

0527: ウィキペディアに彼女<sup>かのじょ</sup>の名前<sup>なまえ</sup>が載っており、パパスは喜<sup>よろこ</sup>ぶ。

0528: ジェヴォンズは、プロデューサ<sup>ぎょう っ</sup>業に就くため、コチエーヴィエ<sup>む</sup>に向かった。

0529: 来た道<sup>き みち まちが</sup>を間違えて逆<sup>ぎやっこう</sup>行し、入り口<sup>い ぐち</sup>に戻<sup>もど</sup>ってきてしまった。

0530: 夜<sup>よる</sup>にプーアル茶<sup>ちゃ だ</sup>を出すカフェが、ミネソタでブームだと。

0531: バスケ部のテヨン<sup>ぶ</sup>が、ある夜<sup>よる</sup>ツェナーダイオード<sup>べんき す</sup>を便器に捨てた。

0532: レンギェルトーティ<sup>さんぼちゅう</sup>の散歩中、ケバブ<sup>かお</sup>の香り<sup>かぜ</sup>が風<sup>の</sup>に乗って匂<sup>にお</sup>った。

0533: ボクサーにピュアウォーター<sup>くば きかく</sup>を配<sup>せいきよう</sup>る企画は、盛況<sup>む</sup>だった。

0534: 夜中<sup>よなか</sup>に街路<sup>がいろ</sup>を歩<sup>ある</sup>いていたのは、園児<sup>えんじ</sup>のミューズだろう？

0535: スパルタだったが、クィンタニラ<sup>うら</sup>を恨<sup>かんが</sup>むなど考<sup>かんが</sup>えられぬ。

0536: 格ゲーだと、バルニャシェフ<sup>かく</sup>に乱入<sup>らんによう</sup>されたら勝ち目<sup>か め</sup>がないぞ。

0537: ジュネーヴへの旅<sup>たび</sup>の荷物<sup>にもつ</sup>を、ヴェーチェル<sup>ふたり</sup>と二人で一括<sup>いっかつこうによう</sup>購入しよう。

0538: コーパス文作<sup>ぶんづく</sup>りで、テャと並<sup>なら</sup>ぶ難<sup>むずか</sup>しさを誇<sup>ほこ</sup>るのは、デャとデョ。

0539: エヴァンスは、油田<sup>ゆでん</sup>を見ながら、クォーツ時計<sup>み</sup>の原理<sup>どけい</sup>を学<sup>げんり</sup>ぶ。

0540: ヴィッツィーニ<sup>しゅつじょう</sup>は、リュージュへの出<sup>だ</sup>場<sup>だ</sup>を打診<sup>だ</sup>されたが、拒否<sup>きよひ</sup>した。

0541: クウオティユースフィス<sup>た</sup>を、他の子供服<sup>こどもふく</sup>と区別<sup>くべつ</sup>して着<sup>き</sup>こなす。

0542: ギエドリユス<sup>ぞうしつ</sup>は、憎嫉<sup>わかも</sup>することなかれと、若者<sup>はっば</sup>に発破<sup>か</sup>を掛けた。

0543: シガピヤーイーエー<sup>ぎょしょう</sup>って魚<sup>なまえ</sup>醤<sup>い</sup>は、名前<sup>なまえ</sup>で言う<sup>い</sup>と微妙<sup>びみょう</sup>にギャグっぽいな。

0544: 百聞<sup>ひゃくぶん</sup>しても、カジミエジュヴナ<sup>ひょうばん</sup>の評判<sup>ひょうばん</sup>はグッドだね。

0545: ヘッティ<sup>ぬか</sup>は、クァンタンで糠<sup>かたまり</sup>の塊<sup>み</sup>を見つ<sup>み</sup>け、こっそり持<sup>も</sup>ち帰<sup>かえ</sup>った。

0546: エゾホトケドジョウ<sup>ぶ じ</sup>を無事<sup>ほ じ</sup>に保護<sup>こぜに</sup>するには、小銭<sup>た</sup>じゃ足<sup>た</sup>りない。

0547: ハ <sup>ちょうちょう</sup>長 <sup>い</sup>調 は以下ツェードゥアと呼ぶが、<sup>よ</sup>発 <sup>はつおん</sup>音が <sup>むづか</sup>難 しいだろ？

0548: スイーツを食<sup>た</sup>べたウェールズは、その甘<sup>あま</sup>さに顎<sup>あご</sup>が外<sup>はず</sup>れそうだった。

0549: 氷<sup>こおり</sup> が張<sup>は</sup>る寒<sup>さむ</sup>さだと、ペチペチ叩<sup>たた</sup>くだけで皮膚<sup>ひふ</sup>がひび割<sup>わ</sup>れるよ。

0550: 愚痴<sup>ぐち</sup>で秘密<sup>ひみつ</sup>を洩<sup>も</sup>らしたタウペアフェを、逃<sup>のが</sup>すわけないだろ。

0551: 松<sup>しょう</sup>竹<sup>ちく</sup>梅<sup>ばい</sup>のトップは何か、ボラーニョは分<sup>わ</sup>からなかった。

0552: まだグウグウ寝<sup>ね</sup>ているが、目覚<sup>め</sup>めと共<sup>とも</sup>に自殺<sup>じさつ</sup>の虞<sup>おそれ</sup>がある。

0553: コジェミヤコは、森<sup>もり</sup>で熊<sup>くま</sup>と出<sup>で</sup>会い、キューと叫<sup>さけ</sup>び眉間<sup>みけん</sup>を殴<sup>なぐ</sup>った。

0554: ヘルシイな料<sup>りょう</sup>理<sup>り</sup>でダイエツトし、余生<sup>よせい</sup>を楽<sup>たの</sup>しむことに致<sup>いた</sup>す。

0555: 美雪<sup>みゆき</sup>とペペは、イエジがプールで泳<sup>およ</sup>ぐのをサポートした。

0556: ヴィンチェンツァとも約<sup>やく</sup>束<sup>そく</sup>したのだから、無茶<sup>むちゃ</sup>はしないと誓<sup>ちか</sup>うぜ。

0557: 赤帯<sup>あかおび</sup>という種<sup>しゅ</sup>類<sup>るい</sup>があり、ビサウには取<sup>しゅ</sup>得<sup>とく</sup>者<sup>しゃ</sup>も実<sup>じつ</sup>在<sup>ざい</sup>するぜ。

0558: 某<sup>ぼう</sup>国<sup>こく</sup>にある、ギュゼルユルト地区<sup>ちく</sup>から、ボディ<sup>やと</sup>ーガードを雇<sup>やと</sup>ったそうだ。

0559: 確<sup>たし</sup>かに、グェリトーレは匙<sup>さじ</sup>を投<sup>な</sup>げたが、ヴァサントなら握<sup>にぎ</sup>り潰<sup>つぶ</sup>せるかも。

0560: 面<sup>めん</sup>倒<sup>どう</sup>だが、ヴェルファイアに<sup>の</sup>乗<sup>よつ</sup>って、四谷<sup>よつや</sup>駅<sup>えき</sup>へいこう。

0561: ゾペティは腹<sup>はら</sup>を満<sup>み</sup>たし、満<sup>まん</sup>足<sup>ぞく</sup>気にチップを支<sup>し</sup>払<sup>はら</sup>った。

0562: 江戸<sup>えど</sup>っ子<sup>こ</sup>だけど、「てやんでえ」は「チャンデェ」に似<sup>に</sup>た発<sup>はつおん</sup>音<sup>おん</sup>だよ。

0563: デェダムロンの家<sup>いえ</sup>は、ゲリラ豪<sup>ごう</sup>雨<sup>う</sup>で床<sup>ゆか</sup>下<sup>した</sup>浸<sup>しん</sup>水<sup>すい</sup>にあった。

0564: 放<sup>はな</sup>してくれ、ヴィルヒョー様<sup>さま</sup>は慈<sup>じ</sup>悲<sup>ひ</sup>深<sup>ふか</sup>く、聞<sup>き</sup>けば無<sup>む</sup>下<sup>げ</sup>にしないはずだ。

0565: トウパーナクは、ポシエツトを<sup>さが</sup>探<sup>た</sup>さなかつたことに、悔<sup>かい</sup>恨<sup>こん</sup>の<sup>なみだ</sup>涙<sup>な</sup>を流<sup>なが</sup>す。

0566: ヴァニリエクランセのレシピを<sup>めぐ</sup>巡<sup>ゆ</sup>り、湯<sup>ゆ</sup>沢<sup>ざ</sup>家<sup>け</sup>は修<sup>しゅ</sup>羅<sup>ら</sup>場<sup>ば</sup>となった。

0567: 聖<sup>せい</sup>火<sup>か</sup>がデュクリュエを<sup>みちび</sup>導<sup>だ</sup>くシーン、連<sup>れん</sup>日<sup>じつ</sup>魅<sup>み</sup>入<sup>い</sup>られたように<sup>み</sup>見<sup>み</sup>るのう。



0568: シェントイェルニェイで、寝込みを襲<sup>ねこ おそ やつ</sup>った奴が、まだはつきりせぬ。

0569: カチュビェーイは、善<sup>ぜんりょう</sup>良<sup>あし</sup>なヴァスデヴァンの足<sup>ひ</sup>を、引<sup>ひ</sup>張<sup>ば</sup>りはしませんよ。

0570: 雑<sup>ざつ</sup>で粗<sup>あら</sup>い仕事で、真面目<sup>まじめ</sup>なウォラルを誤魔化<sup>ごまか</sup>せりゃ、世話<sup>せわ</sup>ないぜ。

0571: バーミューレンさんが粘<sup>ねば</sup>れば、凸凹<sup>でこぼこ</sup>の土地<sup>とち</sup>を平<sup>たい</sup>らにもできるぞ。

0572: その境<sup>きょうち</sup>地<sup>ち</sup>にまで辿<sup>たど</sup>り着<sup>つ</sup>いたら、最早<sup>もはや</sup>フィーリョは止<sup>と</sup>まらないだろう。

0573: ジェグォンは、水族館<sup>すいぞくかん</sup>で係<sup>かかり</sup>の人<sup>ひと</sup>に、ペンギン<sup>ぱんぎん</sup>の場所<sup>ばしょ</sup>を訊<sup>き</sup>きます。

0574: ミャーと鳴<sup>な</sup>くエディに呼<sup>こお</sup>応<sup>う</sup>して、猫<sup>ねこ</sup>はニャーと鳴<sup>な</sup>き返<sup>かえ</sup>した。

0575: ヘヨンにダディと呼<sup>よ</sup>んでほしいので、少<sup>すこ</sup>しづつ慣<sup>な</sup>らそう。

0576: 貯蓄<sup>ちよちく</sup>を殖<sup>ふ</sup>やすべく、マドルツォはボーナスアップ<sup>しゅちよう</sup>を主<sup>しゅ</sup>張<sup>ちよう</sup>した。

0577: カフェで一人<sup>ひとり</sup>を示<sup>しめ</sup>すジェスチャーをすれば、テラスに案内<sup>あんない</sup>される。

0578: ドネツィクで、ヴァインツィールが見初<sup>み</sup>めた人<sup>ひと</sup>じゃ、漠然<sup>ばくぜん</sup>として探<sup>さが</sup>せないよ。

0579: ピニョッティと仲良<sup>なかよ</sup>しのルミャーナが決<sup>き</sup>めたギフトなら、お気<sup>き</sup>に召<sup>め</sup>すだろう。

0580: んーと、ヒュッシュだったら、ギョレメで月見<sup>つきみ</sup>バーガーを食<sup>た</sup>べてるよ。

0581: ペレキュデースはツンデレってやつ<sup>ふ</sup>なのか、振り回<sup>まわ</sup>されて参<sup>まい</sup>るよ。

0582: 羽衣<sup>はごろも</sup>に身<sup>み</sup>を包<sup>つつ</sup>み、演舞<sup>えんぶ</sup>するドゥビーニンに、目<sup>め</sup>を奪<sup>うば</sup>われる。

0583: ビューケルスは誰<sup>だれ</sup>からも好<sup>す</sup>かれるが、やや大人げないところがある。

0584: オフルスは銅坑<sup>どうこう</sup>へ戻<sup>もど</sup>り、酔<sup>よ</sup>えないからとスピリタスをがぶ飲<sup>の</sup>みした。

0585: ラデヤードを主将<sup>しゅしょう</sup>に据<sup>す</sup>えた、カポエイラチームが優勝<sup>ゆうしょう</sup>した。

0586: 正月<sup>しょうがつ</sup>に刀<sup>かたな</sup>の柄<sup>え</sup>を握<sup>にぎ</sup>り、殺陣<sup>たて</sup>にチャレンジする。

0587: えーと、チェリャビンスクは、何<sup>なに</sup>かの発祥<sup>はっしょう</sup>の地<sup>ち</sup>だったはず。

0588: 徐行<sup>じょこう</sup>せずに済<sup>す</sup>む道<sup>みち</sup>はないのかね、ビョルグヴィンさん。

0589: さんびゃくだい 三 百 台 のパジェロか、死ぬ<sup>し</sup>かの二者<sup>にしゃたくいつ</sup>択一で、ピンチだぜ。

0590: じゅうねん 十 年 ぶりに会<sup>あ</sup>ったヴェンチャーリは、昔<sup>せきじつ</sup>日<sup>おもかげ</sup>の面影<sup>うしな</sup>を失<sup>う</sup>っていた。

0591: ツェルクニエで知<sup>し</sup>ったスマホゲーなら、無限<sup>むげん</sup>に時間<sup>じかん</sup>が溶<sup>と</sup>けちゃうぜ。

0592: じゅうもんじぎ 十 文 字 斬<sup>み</sup>りを見たミヒエルは、その喜<sup>よろこ</sup>びをミカエルに伝<sup>つた</sup>えた。

0593: ヴォイヴォディナでは、ポカポカと<sup>あたた</sup>温<sup>ひ</sup>かいまま、日<sup>かげ</sup>が陰<sup>く</sup>る。

0594: シェーペルスは風<sup>かざしも</sup>下<sup>しも</sup>にいたため、山<sup>やま</sup>の異変<sup>いへん</sup>を見逃<sup>みのが</sup>した。

0595: ちりやく 知 略 に富<sup>と</sup>むズィビレの活<sup>かつやく</sup>躍<sup>り</sup>で、宿<sup>しゆくてき</sup>敵<sup>ほろ</sup>を滅<sup>め</sup>ぼせた。

0596: ペラギアは、シシャパンマに登<sup>のぼ</sup>るため、入<sup>にゆうねん</sup>念<sup>そな</sup>に備<sup>そな</sup>える。

0597: ファーヴァは、ハンバーガーのパテが、普<sup>ふだん</sup>段<sup>うす</sup>より薄<sup>きづ</sup>いことに気<sup>き</sup>付<sup>づ</sup>いた。

0598: いえ よじょうきん 家<sup>いえ</sup>の余<sup>よ</sup>剰<sup>じょう</sup>金<sup>きん</sup>は少<sup>すく</sup>ないが、百<sup>ひゃく</sup>ドル程<sup>ていど</sup>度<sup>あつ</sup>は集<sup>あつ</sup>まるだろ？

0599: ジュウエルはスペクトル包<sup>ほうらく</sup>絡<sup>まな</sup>を学<sup>まな</sup>び、途<sup>とちゅう</sup>中<sup>ちゅう</sup>で挫<sup>ざせつ</sup>折<sup>せつ</sup>した。

0600: どくぜつ 毒<sup>どく</sup>舌<sup>ぜつ</sup>なピョートルロヴィチだが、ズバツと本<sup>ほん</sup>質<sup>しつ</sup>的<sup>てき</sup>な指<sup>してき</sup>摘<sup>てき</sup>でやりにくい。